

Fusyo Collaboration letter



1月 29日 No.33 文責 廣田 秀俊

学級活動 Story 特別活動授業公開

文部科学省 和久井 伸彦 調査官をお招きして、1月24日(金)に特別活動授業公開研究を実施しました。県内外から約100名の参加があり、特別活動の授業や附属の研究に対してのニーズがとても高いものだということを実感しました。

今回は低・中・高学年での授業公開とし、「1-1自分たちでできるぞ大作戦」・「自分の食事の課題を見付け、その解決方法を考え実行しよう」・「なりたい『本当の中学生』(4月の自分)について考えよう」の1・4・6年生3クラスの実践を公開しました。



和久井先生は早くから学校に来てくださり、授業前の掃除や朝の学級の様子を見て、何事も前向きに取り組む子供たちの姿に、たくさんのお褒めの言葉をくださいました。授業時間になり、多くの来校者を前にした子供たちでしたが、緊張感をもちつつも、いつも通りの100%の力を発揮してくれました。



1年生の教室では、2年生になる自分たちの力をつけるために、どんなことをしていけばいいのか、子供同士の意見のやり取りのなかで、一つの道筋を見つけていこうとしていました。

4年生の授業では、栄養教諭からのアドバイスを受け、給食を基準とした栄養バランスを考えながら、おやつなどの量も決めて、実践していこうという意識を持つことができました。

6年生の学習では、先日行った中学生のインタビューも念頭に置きながら、一人一人の個人の成長や目標をオリジナルの価値語に変えて、具体策を考えていく姿がありました。

授業後の研究会では、成長ノートをもとにした、特別活動の授業の振り返りについて質問を受けたり、授業で活用したマンダラートの活用時期を話し合ったり、一人一人の児童の実態から考える柔軟性を持たせる目標設定についての意見交換などの、活発な討論が行われました。

和久井先生の講演では、“児童の成長段階に合わせた教師の支援の方法”や“意思決定していくための資料の精選”“今の課題をふまえて考えさせていく重要性”“何を学ばせていくかの明確化”など、様々な学びを受けることができました。特別活動の授業によって自治的能力・自己指導力・自己実現を図る力を高めていく学びを積み重ねていくことが大切だということ、改めて考えていくことができました。今回もPTAの皆さんのご協力でスムーズな進行ができたことにお礼申し上げます。ありがとうございました。

